

令和2年度第1回栄地区協議会 会議録（概要）

●会議を開催した日時及び場所

日 時 令和2年6月4日（木） 午前10時～午前11時15分
場 所 三条市役所栄庁舎 3階 教育センター中会議室

●出席委員（◎会長、○副会長）

佐藤 洋一	中村 文雄	長野 功	○須佐 信夫
◎殖栗 孝雄	小川 好美	堀内 靖記	宮島 敏明
長谷川勝榮	島影 正幸	中村 貴子	鈴木 正道
武田 哲夫	(13人)		

(欠席委員)

澁川 真利 (1人)

●出席者

総務部長 笹川 浩志、政策推進課長 米持 克広
栄サービスセンター長 大橋 信彦
政策推進課 政策推進係長 前山 直人
栄サービスセンター 総務グループ長兼総合窓口グループ長 阿部 修造

●傍聴者

なし

●報道機関

なし

●内 容

- 1 開 会(10:00 開会)
- 2 出席者紹介
- 3 議事

(1) 副会長の選出について

副会長に須佐信夫委員を選出

(2) 行政評価に基づく令和元年度事後評価について

(政策推進課長 説明)

資料No.1-1～No.1-4により行政評価に基づく令和元年度事後評価について説明

～質 疑～

(中村(文)委員)

資料No.1-2の12ページに記載のある「配慮のスキル」、「関わりのスキル」とはどのような意味か。

(政策推進課長)

「配慮のスキル」、「関わりのスキル」とは、子どもたちが他者と関わる力を測るための指標である。ハイパーQU検査の結果を本市の教育システムの基盤強化の指標に用いている。

(鈴木委員)

資料No.1-2の22ページに記載のある空き家バンク制度について、栄地区の利用者数・実績数を把握していたらお聞かせいただきたい。個人の感想としては、空き家の数はかなり増加しているように感じている。

(政策推進課長)

栄地区に特化した数値は持ち合わせていない。所管課に確認し、把握しているのであれば後日、回答したい。

(宮島委員)

資料No.1-2の2ページを見ると難しい言葉が多く使用されているように感じる。資料の欄外にでも言葉の説明が必要だと感じる。「コト・ミチ人材」や「リアル開発ラボ事業」、さらには「ニッチ分野進出支援事業」など、特に横文字は欄外に注釈をお願いしたい。

(政策推進課長)

資料に分かりづらい言葉が多く使われている点は、委員の御指摘のとおりだと思う。できる限り分かりやすい言葉を使った資料づくりを行いたい。

(殖粟会長)

コト・ミチ人材やリアル開発ラボなどの横文字の説明をお願いしたい。

(政策推進課長)

本市の基本的スタンスとして大量生産・大量消費という中国やベトナムといったところが得意とする製造業の在り方を追求し、同じ土俵で競っても勝てないため、製品の価値を打ち出していくことが必要と考えている。沢山の手がかかっているとか、非常に品質が高いなど、その製品の背景をしっかりと見せることが重要ということである。それを製品にまつわる「コト」と呼んでいる。また、「ミチ」は、その背景に共感してくれる一部の人に対して、コトをつなげていくことであり、これらを総合的にプロデュースしてくれる人をコト・ミチ人材としている。そのコト・ミチ人材の育成が急務であると考えている。

「リアル開発ラボ」とは、本市には様々な技術があるが、その技術が必ずしも付加価値の高い製品開発に繋がっていないという問題意識がある。どういうところでその技術を活用すると付加価値の高い製品が生まれるのかということを目利きできる人の下で技術を取れんさせ、付加価値の高い製品開発を行っていく事業である。

ニッチ分野進出支援事業とは、「ニッチ＝すき間」という意味で誰もが狙う大きな市場は、既に先行する他者が高いシェアを占めている。そこで誰もが狙わないような狭いすき間の市場であっても本市の人口規模・事業規模であれば十分な市場が見込め、そこに適応するような製品開発を進めていくものがニッチ分野進出支援事業である。

(長谷川委員)

この栄地区協議会の役割、存在価値をどのように考えているのかお聞かせいただきたい。行政評価に対する意見・質問を申し上げるだけに存在するように感じるが事務局のお考えを伺いたい。

(政策推進課長)

この協議会の役割としては、本市の最上位計画である総合計画の進捗管理である。また、各地区それぞれの施策の進捗状況を報告し、意見等を頂戴し、それを踏まえて施策に反映させることや、さらには、それ以外にも地域の声を直接伺うことができる貴重な場であると捉えている。

(長谷川委員)

三条、栄、下田地区協議会とそれぞれ別々に開催するよりも三つの地区の委員が混在し交流したほうが、それぞれ違う角度から色々な意見・話し合いができると思うがいかがか。

それともう一つ、多極分散型の施策について伺いたい。

(政策推進課長)

委員から御提案があった3地区全体での意見交換の場については、十分検討の余地があると考えている。検討課題とさせていただきたい。

多極分散型社会の維持・存続は、総合計画の大きな方向性の一つである。コンパクトシティや効率化という流れも全国的にはあるが、一方で都市の個性が無くなるということが指摘されている。個性とはその地域の歴史文化であり、それを守っていくことが大切であると総合計画では掲げている。その先のことは申し上げることはできないが、少なくとも現総合計画の残り3か年については、この方針でぶれることなく進めていく。

(長野委員)

2点伺いたい。1点目は、木質バイオマス発電所への市内産木材供給量が、目標値14,200tに対して令和元年度の実績ではかなり落ち込んでいるが、今後どのように取り組んでいくのか。目標値はどのようなところから出てきた数字か。

2点目は、地域おこし協力隊の定住率が約27%ということであるが、この費用対効果についてどのようにお考えなのか伺いたい。

(政策推進課長)

いずれも詳細な方向感・回答は持ち合わせていない。所管課に確認し、後日、改めて報告をさせていただきたい。

(長谷川委員)

三つ伺いたい。一つ目は、令和2年度予算歳入の中の市税が127億1千万円との記載があるが、この内、法人税が占める割合はどの程度なのか。二つ目は、分譲を始めた帯織街苑の状況についてどうか。三つ目、これは要望になるが金婚夫婦に祝いの席であったり、又は祝い品などは検討ができないか伺いたい。

(総務部長)

私の方から帯織街苑の状況について説明をさせていただきたい。全体で84区画の内、現在10区画が販売されている状況である。人口定住という意味合いで分譲を始めた訳であり、栄流通工業団地に進出される全ての企業にもお声掛けをしているが、昨今の住宅需要が芳しくない状況もあり、引き続き様々な媒体を活用しPRを図っていきたい。是非、委員の皆様からも御紹介いただきたい。

(政策推進課長)

1点目の市税に占める法人税の割合は、約8%である。

3点目については、所管課に申し伝える。

(鈴木委員)

帯織街苑の雑草の管理はどこがやるのか。

(総務部長)

県央土地開発公社で管理を行う。地元で迷惑が掛からないように管理をしていくので御理解をお願いしたい。

(中村委員)

当協議会の委員には是非、若い人を選任してもらいたい。このような場合は、若い人が出てくるようにしていかなければならないと思うがいかがか。

(政策推進課長)

以前にも同じような御指摘を頂いたと記憶しており、私どもとしても若い人の意見は必要だと認識している。なかなか御期待に応える結果になっていないが、若い人が参加しやすい協議会をどう作っていくか、引き続き検討していきたいと考えている。

(佐藤委員)

これまでも申し上げてきたが、全体的にまちなかと下田が中心になっていると感じる。私たちが一番希望を持って期待していたのは帯織街苑の造成であったがそれもなかなか売れない状況と伺った。企業も農業も後継者がいない、確保ができないという課題もある。もう少し、市も栄地区に目を向けてカンフル剤を入れてほしい。また、しらさぎ森林公園の遊具は、設置はするが管理が行き届いていないという声を聞く。ちょっとしたところに目を配っていただきたい。

(総務部長)

栄地区は、今現在、流通工業団地の造成を進めているが、それが完成した暁には、相当変化し発展していくと感じている。引き続き意を持って対応していきたい。また、しらさ

ぎ森林公園の御指摘については、先日、八幡公園のリニューアルオープンがあり、トリムの森の整備も今年度で終了し、間もなく大崎山公園も手を掛けていく計画である。その次には、しらさぎ森林公園が控えていると認識しているが、委員の御指摘は通常のメンテナンスであり、危険な遊具はないかなど点検を行い、修繕が必要なものについては適宜、対応していきたいと考えている。

(殖粟会長)

栄地区ではこういうものにスポットを当てて施策を展開していこうという計画はあるのか。例えば、下田地区であれば観光を中心に、旧三条地区であればものづくりという目玉があるが、市は栄地区については、これを目玉に据えて展開していこうというような考えをお聞かせいただきたい。

(政策推進課長)

栄地区には帯織街苑や工業流通団地が整備され、また近隣には子育て拠点施設のすまいるランドなどの子育て環境も充実しており、若年層にやさしい子育てしやすい地区と捉えている。また、物流の拠点として、今後はものづくりの重点地区としての地位も確立していくという市長の方針もあり、そのように捉えているところである。

4 閉会 (11時15分閉会)